

トップスポーツチームと競技施設について

1 トップスポーツチームと競技施設（公式戦ホームゲームを行う競技施設）

(1) 公共施設の利用

競技施設	トップスポーツチーム
横浜スタジアム	横浜DeNAベイスターズ
日産スタジアム （横浜国際総合競技場）	横浜F・マリノス、横浜キヤノンイーグルス
ニッパツ三ツ沢球技場 （三ツ沢公園球技場）	横浜FC、横浜F・マリノス、Y.S.C.C.、 日体大FIELDS横浜、ニッパツ横浜FCシーガルズ、 横浜キヤノンイーグルス
三ツ沢公園陸上競技場	Y.S.C.C.、日体大FIELDS横浜、ニッパツ横浜FCシーガルズ
横浜国際プール	横浜ビー・コルセアーズ
横浜武道館	Y.S.C.C.（フットサル）、 横浜エクセレンス、横浜ビー・コルセアーズ

(2) 民間施設の利用

競技施設	トップスポーツチーム
KOSÉ新横浜スケートセンター	横浜GRITS

※その他のトップスポーツチーム（日立サンディーバ、YOKOHAMA TKM）は、ホームスタジアムの設定がありません。

1 トップスポーツチームと競技施設（練習場とする施設）

トップスポーツチーム	主な練習場
横浜DeNAベイスターズ	DOCK OF BAYSTARS YOKOSUKA <u>（横須賀市）</u>
横浜エクセレンス	KATO FACTORY ARENA <u>（品川区）</u>
横浜キヤノンイーグルス	キヤノンスポーツパーク <u>（町田市）</u>
日体大FIELDS横浜	日体大健志台キャンパス
ニッパツ横浜FCシーガルズ	横浜FC東戸塚フットボールパーク
Y.S.C.C.	YC&AC（Yokohama Country & Athletic Club）
横浜FC	横浜FC・LEOCトレーニングセンター
横浜F・マリノス	新横浜公園
Y.S.C.C.（フットサル）	ノア・フットサルステージ横浜 など
横浜ビー・コルセアーズ	たきがしら会館
横浜GRITS	横浜銀行アイスアリーナ
日立サンディーバ	日立ソフトボール部練習場（横浜工場内）
YOKOHAMA TKM	横浜FC東戸塚フットボールパーク

2 トップスポーツの競技等に 供される施設（屋内）

- (1) 横浜国際プール
- (2) 横浜武道館
- (3) KOSÉ新横浜スケートセンター
- (4) 【参考】横浜アリーナ
- (5) 【参考】メインアリーナ

2 トップスポーツの競技等に供される施設（屋内）

(1) 横浜国際プール

供用開始	1998年（平成10年）
収容人数	メインアリーナ：約5,000人 サブプール：約400人
利用種目	・水泳競技 ・バスケットボール（Bリーグ） ・テニスなど
スポーツチームによる利用	・横浜ビー・コルセアーズ（Bリーグ）
主な大会実績	・かながわ・ゆめ国体【1998年（平成10年）】 ・パンパシフィック水泳選手権大会【2002年（平成14年）】 ・FINAシンクロナイズドスイミングワールドカップ【2006年（平成18年）】 ・FINA水球ワールドリーグインターコンチネンタルトーナメント【2016年（平成28年）】
その他利用	・英国代表チーム事前キャンプ【2021年(令和3年)】
管理者	<指定管理者> 横浜市スポーツ協会・コナミスポーツ・トーリツグループ



【特徴】

- ・メインアリーナは、可動床を使い、夏季はプール、冬季は体育館として利用
- ・供用開始から20年以上が経過し、老朽化が進んでいる。
- ・現在のスポーツ施設の主流であるホスピタリティ施設が不足している。

2 トップスポーツの競技等に供される施設（屋内）

(2) 横浜武道館

供用開始	2020年（令和2年）
収容人数	アリーナ：約3000人 武道場：約500人
利用種目	バスケットボール、フットサル、卓球 柔道、空手など
スポーツチームによる利用	<ul style="list-style-type: none"> 横浜ビー・コルセアーズ（バスケットボール） 横浜エクセレンス（バスケットボール） Y.S.C.C.（フットサル）
主な大会実績	<ul style="list-style-type: none"> B1リーグ B3リーグ Fリーグ バスケットボール女子日本代表国際強化試合 三井不動産カップ2021
その他利用	<ul style="list-style-type: none"> プロレス
管理者	<指定管理者> 株式会社YOKOHAMA文体



【特徴】

- ・2020年（令和2年）7月に、横浜市の公共施設で初めて本格武道場を備えた施設。
- ・アリーナには、スポーツイベント、ライブ等に活用できる大型ビジョンを設置。

2 トップスポーツの競技等に供される施設（屋内）

(3) KOSÉ新横浜スケートセンター	
供用開始	1990年（平成2年）
収容人数	2,446名（固定席1,392名、立見1,054名）
利用種目	フィギュアスケート、アイスホッケー
スポーツチームによる利用	・横浜GRITS（アジアリーグアイスホッケー）
主な大会実績	・アジアリーグアイスホッケー（旧アイスホッケー日本リーグ） ・ISUジュニアグランプリ 日本大会【2016年（平成28年）】
その他利用	・プリンスアイスワールド（アイスショー） ・ドリーム・オン・アイス（アイスショー） ・フレンズ・オン・アイス（アイスショー）
管理者	新横浜プリンスホテル



<特徴>

- ・アイスホッケーやフィギュアスケートの公式試合が行われる、60m×30mの屋内国際規格リンク。
- ・最大2,500人（立見を含む）を収容する観客席で、国内外の有名スケーターが集う本格的なアイスショーも可能。
- ・日本のフィギュアスケート文化の、貴重な発信基地。

2 トップスポーツの競技等に使される施設（屋内）

(4) 【参考】横浜アリーナ

供用開始	1989年（平成元年）
収容人数	17,000人
利用種目	バスケットボール、バレーボール、卓球など
スポーツチームによる利用	特定チームの利用なし
主な大会実績	<ul style="list-style-type: none"> ・ Bリーグチャンピオンシップファイナル ・ FIVBワールドカップ2019横浜大会（女子バレー） ・ 2018世界バレー女子大会-JAPAN- ・ FIVB 女子バレーボール ワールドグランプリ 2008（決勝ラウンド ファイナル横浜） ・ HIS 2009年世界卓球選手権横浜大会（個人戦）
その他利用	<ul style="list-style-type: none"> ・ ショー・コンサート ・ 集会・式典 ・ 展示・物販
管理者	株式会社横浜アリーナ



<特徴>

- ・ 音楽コンサートを主として様々なイベントの開催が可能。
- ・ コンピュータ制御の可動式シート11,000席、大型4面LED映像装置、天井前面に約600点のフックが点在し、イベントに合わせた様々な演出に対応。

2 トップスポーツの競技等に供される施設（屋内）

(5) 【参考】メインアリーナ

供用開始	2024年（令和6年）予定
収容人数	アリーナ：約5000人
利用種目	バスケットボール、バレーボール、卓球、バドミントン、柔道、空手など
その他利用	コンサート、イベントなど
管理者	<指定管理者> 株式会社YOKOHAMA文体

【特徴】

- ・ スポーツイベントやコンサートなどの興行利用が可能
メインアリーナ：約2,500㎡ ※バスケットボールコート2面
体育館：約750㎡ ※バスケットボールコート1面
- ・ 観客席の一体感を生む扇状の「劇場型アリーナ」
- ・ 「魅せる」アリーナとして大型ワイドビジョン設置（幅26.8m×高さ4.8m）
- ・ プロバスケットボールB1リーグに対応するアリーナ（VIPルーム、ラウンジ等設置）



3 トップスポーツの競技や市民利用に 供される運動施設（屋外）

- (1) 横浜国際総合競技場（日産スタジアム）
- (2) 三ツ沢公園球技場（ニッパツ三ツ沢球技場）
- (3) 三ツ沢公園陸上競技場
- (4) 横浜スタジアム
- (5) 俣野公園野球場（俣野公園・横浜薬大スタジアム）
- (6) 瀬谷本郷公園野球場

3 トップスポーツの競技や市民利用に供される運動施設（屋外）

(1) 横浜国際総合競技場（日産スタジアム）	
供用開始	1998年（平成10年）
収容人数	72,300人
利用種目	<ul style="list-style-type: none"> ・サッカー（Jリーグ、国際試合） ・ラグビー（ジャパンラグビーリーグワン、国際試合） ・陸上競技（日本陸連第1種認定 世界陸上連盟クラス2認定）
スポーツチームによる利用	<ul style="list-style-type: none"> ・横浜F・マリノス（サッカー） ・横浜キヤノンイーグルス（ラグビー）
主な大会実績	<ul style="list-style-type: none"> ・2002FIFAワールドカップ™（サッカー） ・ラグビーワールドカップ2019™（ラグビー） ・東京2020大会（サッカー） ・ジュニアオリンピック（陸上） ・”日清食品カップ”全国小学生陸上交流大会 ・日産スタジアム杯少年サッカー大会 ・日産スタジアム駅伝 など
コンサート実績	Mr.children、B'z、サザンオールスターズ、AKB48、ケツメイシなど
管理者	<指定管理者> 公益財団法人横浜市スポーツ協会・管理JV共同事業体



【特徴】

- ・国内最大級の総合競技場
- ・スポーツイベントとコンサートの開催が可能（最高観客動員数72,000人）
- ・国際大会が開催できる最高水準の施設をアマチュア競技でも体感できる。
- ・ラグビーワールドカップ2019™、東京2020大会に向けた、4Kに対応したLED照明の導入や、トイレや観客席などの施設改修を実施し、最新の設備へ更新された。

3 トップスポーツの競技や市民利用に供される運動施設（屋外）

(2) ミツ沢公園球技場（ニッパツミツ沢球技場）	
供用開始	1955年（昭和30年）
収容人数	15,000人
利用種目	<ul style="list-style-type: none"> ・サッカー（Jリーグ、なでしこリーグ、高校サッカー、大学サッカーなど） ・ラグビー（トップリーグ、大学ラグビーなど）
スポーツチームによる利用	<ul style="list-style-type: none"> ・横浜FC、横浜F・マリノス、Y.S.C.C.（サッカー） ・ニッパツ横浜FCシーガルズ、日体大FIELDS横浜（女子サッカー） ・横浜キヤノンイーグルス（ラグビー）
主な大会実績	<ul style="list-style-type: none"> ・東京1964大会（サッカー競技） ・東京2020大会（サッカー練習会場） ・全国高等学校サッカー選手権大会 ・全国高校ラグビー大会県予選 ・市民大会（サッカー） など
管理者	<指定管理者> 公益財団法人横浜市緑の協会・ 公益財団法人横浜市スポーツ協会共同事業体



【特徴】

- ・東京1964大会のサッカー競技で使用された球技場
- ・男子サッカー(Jリーグ) 3チーム、女子サッカー（なでしこ） 2チーム、ラグビー1チームの計6つのスポーツチームが利用
- ・サッカー、ラグビーのアマチュア競技大会が開催され、特にサッカーの聖地として市民に親しまれている。
- ・魅力ある球技場となるよう、改修を検討中

3 トップスポーツの競技や市民利用に供される運動施設（屋外）

(3) ミツ沢公園陸上競技場	
供用開始	1951年（昭和26年）
収容人数	18,300人（スタンド席は5,413人）
利用種目	<ul style="list-style-type: none"> ・サッカー（J3、なでしこリーグ、市民大会など） ・ラグビー（市民大会） ・陸上（日本陸上競技連盟第2種競技場）
スポーツチームによる利用	<ul style="list-style-type: none"> ・Y.S.C.C.（サッカー） ・ニッパツ横浜FCシーガルズ、日体大FIELDS横浜（女子サッカー）
主な大会実績	<ul style="list-style-type: none"> ・J3リーグ、なでしこリーグ ・シニアサッカー大会 ・陸上競技会（小中高校生の記録会や大会） など
管理者	<指定管理者> 公益財団法人横浜市緑の協会・ 公益財団法人横浜市スポーツ協会共同事業体



【特徴】

- ・1951年の供用開始当時、神奈川県初の日本陸上競技連盟第1種競技場であった。（現在は第2種競技場）
- ・陸上競技を中心に利用され、アマチュア大会が開催されている。
- ・芝生は球技場としても利用され、J3リーグ（サッカー）や、なでしこリーグの公式戦が行われている。

3 トップスポーツの競技や市民利用に供される運動施設（屋外）

(4) 横浜スタジアム	
供用開始	1978年（昭和53年）
収容人数	35,384人（プロ野球開催時34,046人）
利用種目	・ 野球 ・ ソフトボール ・ アメリカンフットボール ・ サッカー
スポーツチームによる利用	横浜DeNAベイスターズ
主な大会実績	・ 東京2020大会（野球、ソフトボール） ・ 日本女子ソフトボールリーグ ・ 日本社会人アメリカンフットボールXリーグ ・ 全国高等学校野球選手権大会県予選 など
コンサート実績	サザンオールスターズ、ゆずなど
管理者	株式会社横浜スタジアム



【特徴】

- ・ 株式会社横浜スタジアムにより建設され市に寄附された硬式野球場
- ・ 横浜DeNAベイスターズの本拠地であり、プロ野球やコンサートなどの興行が行われている。
- ・ H29年から増改築工事が行われ、右翼・左翼スタンド、個室観覧席が増設され、約6,000席が追加された。
- ・ エレベーターの設置によりバリアフリーの課題も解消した。

3 トップスポーツの競技や市民利用に供される運動施設（屋外）

(5) 俣野公園野球場（俣野公園・横浜薬大スタジアム）	
供用開始	2008年（平成20年）
収容人数	3,000人
利用種目	・硬式野球 ・軟式野球 ・ソフトボール
主な大会実績	・全国高等学校野球選手権神奈川県大会予選 ・大学野球公式戦 ・中学生野球大会
管理者	<指定管理者> 公益財団法人横浜市緑の協会



【特徴】

- ・横浜ドリームランド跡地に建設された硬式野球場
- ・大学野球や高校野球の利用が中心
- ・土日の利用率は100%
- ・年間利用率も70%以上で多くの市民の方々に利用されている。
- ・全国高校野球神奈川県大会予選では、横浜スタジアムと共に県内の主要会場として利用されている。

3 トップスポーツの競技や市民利用に供される運動施設（屋外）

(6) 瀬谷本郷公園野球場	
供用開始	2001年（平成13年）
収容人数	120人
利用種目	・ 硬式野球 ・ 軟式野球 ・ ソフトボール
主な大会実績	・ 中学生野球大会 ・ 小学生野球大会
管理者	< 指定管理者 > 横浜植木株式会社



【特徴】

- ・ 小学生、中学生の野球大会に加え、高校生以上にも多く利用されている。
- ・ 土日の利用率は100%
- ・ 年間利用率も80%以上で、多くの市民の方々に利用されている。
- ・ 硬式野球ができる野球場として、アマチュア野球の大会や練習場所として利用されている。